

建設協会ボランティアで 金比羅火口フットパスの階段作り

町と「災害時における応急復旧に関する協定」を交わしている洞爺湖町建設協会（加藤恵蔵会長 = 14社）が、6月30日、金比羅フットパスコースの整備に協力して、4カ所の案内標識の設置と安全ロープを渡す支柱5本の打ち込み作業に汗を流しました。

同会は、町との協定の一環で、ボランティアでの整備活動を続けていて、今年は金比羅火口フットパスコースの整備に決定。

引き続き7月17日にも、同会加盟各社の代表などが参加して、階段とロープ作りを行い、全長が約400mで、幅約60cm、焼きまると200本を使った階段が整備されました。



フットパスの階段作りに汗を流す会員の人たち

洞爺湖温泉飲食店組合（横山節子組合長）が、温泉誕生100年を祝い、7月6日お年寄りを招き、いままでも町をささ



歌や料理を楽しむお年寄りたち

てくれたことに感謝するパーティーを温泉のスナックで開きました。募集に応じた75才以上のお年寄り約60人が集まり、料理やカラオケなどのもてなしを受け、楽しいひと時を過ごしました。

横山節子組合長が「いままでささえていただいた温泉街を、これからの若い人に引き継いでいきたい」とあいさつ。

参加者を代表して畠山温泉7区会長が「そんなに貢献してきたか疑問ですが、皆さんのご好意を受けて楽しく過ごしましょう」とお礼のお言葉を述べました。

参加者は、ホタテの炊き込みご飯やオードブルを味わいながら、山下真二さんの歌やダンスショーなどを楽しみ、最後に洞爺湖音頭を踊り楽しい一時を過ごしました。

誕生100年を記念して温泉飲食店組感謝パーティー
ささえてくれたお年寄りをもてなす

7月10日親子食育料理教室（主催食生活改善推進員協議会）が、健康福祉センターさわやかで開かれ、親子約25人が参加して、仲良く調理を楽しみました。



自分で作った料理に大満足の参加者

この日は、食を通して親子の絆を深めることを目的に、「野菜たっぷりドライカレー」「はるさめサラダ」「ヨーグルトドリンク」「まんまるゼリー」の4品に挑戦。

子どもたちは、同協議会の会員やお父さん、お母さんの手助けを受け、慣れない包丁さばきにとまどいながら、料理を完成させました。

最後に出来上がりを全員で試食し、できればに大満足した様子でした。

料理で親子の絆深める 自分で作った料理に大満足

生産者の苦労や喜びを知る とうや小生産者との交流会

生産者との交流を通して、その苦労や喜びをしようとうや小学校で、7月16日生産者との交流会が行われました。



生産者の話を聞く児童たちと

文部科学省が委託している「栄養教諭を中核とした食育推進事業」の一環として実施されたもので、7人の生産者が各学年に別れて、それぞれの教室で、児童らに自らの体験を語りました。

2年生を担当した村上洋子さんは「キャベツは90日かかります。おいしく育ててねと思って作っています」と作り手の思いを児童に話しました。

児童たちは、様々な苦労や喜びを聞いて、給食に出てくる野菜が、手間ひまかかっていることを実感した様子でした。

まちのわだい

